

# 有限会社横田工作所

ものづくり技術

一般型

## 設備装置の導入で作業環境を改善 都市部の市場を攻め、地域活性化へ

事業  
内容

### 鍛冶屋の老舗が鉄骨工事専門業者へ 国土交通大臣認定Mグレード指定工場

創業は1910年(明治43年)とその歴史は古く、創業当初は熊野川上流の木材を下流に送り届ける際に使用される銚めすぢ(2つの材木を連結するための金具)を製造する鍛冶屋であった。時代の流れとともに、銚や刃物、工具などの加工が減り、4代目社長(横田修一氏)の時に建築分野に参入。以降、鋼構造物の加工製造・工業者として発展し、現在、会社を引っ張るのは5代目の横田敏郎氏である。

地元新宮市内や三重県の保育園や小中学校、ビルなどの鉄骨工事を請け負っているほか、近年は、京阪神方面や名古屋方面からの大型物件の鉄骨工事の受注もある。

メイン工場である高田工場は、新宮市内から車で30分程度、山奥の人里離れたところに立地する。加工のためのスペースを確保することに加え、騒音や粉塵で地域住民に迷惑をかけないための配慮だ。スペースが確保できているため、比較的まとまった受注に対応できる。さらに技術加工面では、Mグレード指定工場の大臣認定も受けていることも後押しして、加工製品での差別化が難しいなか、コンスタントな受注につながっている。

補助  
事業

### ショットブラスト装置の導入 生産性向上と作業環境の改善を目指す

同社が拠点を置く和歌山県新宮市では人口減少が続いており、それに合わせて建築需要も減少し続けている。同地において2階・3階建ビルの建替え需要はあっても、大型物件の新築および建替え需要は少ないのが現状である。このまま地場案件を中心に仕事を行っていたら、安定的な受注を確保するのは難しい。また、そのように建築物件が小型化し、案件数自体が少なくなることは、技術面においても大都市部の企業と差が出てしまうという危機感があった。大都市部での受注競争に競り勝ち、技術力を高めていくことが必要となっていた。

そこで平成24年度の補助事業で鋼材を加工するためのドリルマシンを導入、鋼構造物の大型化および短納期に対応することに成功した。

しかしながら、受注競争に打ち勝っていくにはさらなる設備投資が必要であり、工場の生産性を向上させていく必要



があった。特に、鉄表面の摩擦面処理において品質安定化および作業負担の軽減が喫緊の課題となっていた。平成25年度の補助事業では、この点を改善することにより納期面・コスト面において大都市部の新規市場で勝負できるようになると見込み、表面研削を行うショットブラスト装置を導入した。

有限会社 横田工作所 高田工場

代表取締役社長 横田 敏郎

新宮市高田165-2

TEL:0735-29-0346

〈資本金〉10,000千円 〈従業員〉7人

URL:http://www.rifnet.or.jp/~yokota/

成果

## 作業環境の改善、従業員のモチベーション向上 都市部の大型案件の受注

ショットブラスト装置の導入により、今まで重労働の手作業で行っていた鉄表面の摩擦面処理の品質が安定したことに加え、装置には集塵機も装備されているため、鉄粉が工場内に飛散することもなくなり、作業環境が大きく改善した。作業時間では、手作業の10分の1程度で表面処理ができるようになり、納期面の短縮はもちろんコスト面でも競争力が高まった。

また、今まで重労働かつ手作業の単純工程が機械化されたことにより、従業員が他の複雑で難しい加工に時間を費やせるようになった。モチベーションの高まりも見られ、仕事に対して以前より前向きになるなどの間接的な効果もあったようだ。

高額な装置の導入には相応の勇気と覚悟が必要であるが、2年連続で設備投資が叶ったことにより、従業員に気概

を見せることもできた。

2015年度には新たな設備を利用し、横浜や京都など大都市部の大型鉄骨工事も受注。設備面での優位性が高まったことによりゼネコン各社からの評価も高まりつつある。

今後の  
展開

## 地域を勢いづけるきっかけ作り 人材の確保・育成に注力

今後の展開としては、大都市部から大型物件の受注を獲得し、技術力を高めていく方針に変わりはない。

加えて、地域の同業者へ今回の設備装置導入による効果を説明していく。地域の同業者の中には、鋼材の加工工程を大阪の企業に依頼しているため運送コストが高くつき、納期までに時間が掛かっているケースがある。低コスト・短納期を実現しながら同じ加工ができることをアピールしていく予定だ。

大都市部で培った技術を地域内にも発信していき、新宮地域を技術面で牽引できる企業となり、地域経済に還元し

ていく考えである。

一方で、受注量の増加に合わせて人材の確保・育成も進めていく。求人を出す際も、以前は作業員の募集であったが、現在は機械オペレーターの募集に変わっている。これにより、従来と比べて鋼業界が身近になったとも感じている。工程の機械化により定着率も上がっており、「機械+人の技術力」で若手人材の育成を進める。

今後も持てる技術を活かし、地域内の鉄に関わる仕事であれば、建築物から手摺り、小型の金物まで幅広く対応し、鉄の分野で地域を支えていく。

